「私の人生とこころどころ」（抜粋）　鈴木正

大正９年　日吉で熊が馬を襲った話

常呂町高齢者教室『昭和63年度オホーツク大学文集トーコロ』掲載

（略）大正９年４月、私は手師学小学校に入学しました。春以来、農業の方も順調でしたが、なにぶん食糧不足気味なので、７月の末午後１時頃、姉と私と妹の３人で手かごを持って馬鈴薯を掘りに行きました。その時、200メートルくらい先の藪の中で馬の大きな悲鳴のようないなきがして、すぐ大きな熊の吠える声が聞こえました。足がすくむとはこのことか、しばらく動けませんでした。そこは矢野さんという人が畑のそばに馬をつなぎ、草取りをしていたのでした。馬は牝のどさんこで、大きく気の強い方でした。熊は馬の尻に爪をかけてから肩に大きな傷を付け、血だらけの馬の前になり、馬の前足を両肩に担ぎ、馬の後ろ足を歩かせて、山へ持って行こうとしました。馬は鳴き、熊は吠えて、日中のことなので部落中大騒ぎになりましたので、熊は馬を投げ出して山へ逃げて行きました。それは今の日吉のガソリンスタンド（注：旧農協支所横）の前の方でした。

馬は長いことかかって治療して一命を取り留め、傷も治りましたが、それからはあまり仕事ができなくなったそうです。（略）